

Eagle
MAXIM EX

イーグル
マキシムEX 施工要領書
マルスギ株式会社

初版

注意事項

1. 本資料は専門工事業者（瓦屋根）を対象としています。
2. 本資料は当社の標準施工要領を示すものです。
（地域・ハウスメーカー毎に施工方法が異なる場合があります。）
3. 本資料は法改正、商品改良のためなどにより予告なく変更する場合がありますので、施工の際には本資料が最新であることをご確認ください。

改定内容

目 次

1 . 安全上のご注意	-----	1
2 . 安全作業のために	-----	1
1) 作業開始前の点検・確認		
2) 作業における点検・確認		
3) 施工後の養生・保守管理		
4) その他		
3 . 安全作業	-----	2
安全管理（高所作業の安全）		
現場での瓦の取扱方法		
瓦揚げ		
梱包の解き方		
4 . 施工後の保守・管理	-----	3
5 . 製品の仕様		
製品リスト 瓦	-----	4
雨押え・水切部材・木材・副資材	-----	5, 6
各部位名称と掲載頁・役物使用箇所	-----	7
6 . 下地の施工		
1) 桁行と流れの地割寸法	-----	8
2) ルーフィングの施工	-----	9
3) 瓦の割付手順	-----	10
4) 軒先部	-----	11
5) その他	-----	12
7 . 標準的な施工方法		
1) 棧瓦の施工	-----	13
2) 軒先の施工	-----	14
3) ケラバの施工	-----	15
4) 大棟の施工	-----	16, 17
5) 隅棟の施工	-----	18, 19
6) 本谷の施工	-----	20
7) 壁際の施工	-----	21
8) 片流れの施工	-----	22
9) 雪止の施工	-----	23

1 . 安全上のご注意

* 瓦屋根工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく工事してください。

表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分して、説明しています。

警告	* この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	* この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

工事終了後、チェックリストにしたがって各部の点検を行い、異常のないことを確かめてください。

警告	
屋根工事に際しては、屋根からの転落の危険があります。施工要領書通りに正しい作業を行ってください。 屋根工事に際しては、必ず転落防止のための防護ネットや足場を設置してください。 屋根面から器物が落下しないようにしてください。 瓦の積み上げ、破材処理については、施工要領書通り正しい作業を行ってください。	* 安全対策を怠ると、落下してケガをするおそれがあります。 * 設置を怠ると、落下してケガをすることがあります。 * 器物が落下すると、ケガ及び器物破損のおそれがあります。
注意	
瓦は施工要領書通りに必ず緊結してください。 瓦の取り扱いには必ず手袋を着用してください。 結束された瓦の取り扱い時には結束バンドの強度を確認してください。	* 緊結不良により、瓦のズレ、落下のおそれがあります。 * 瓦のバリなどによりケガをするおそれがあります。 * 結束バンドの接着不良、劣化等により結束バンドが切れることがあります。

2 . 安全作業のために

1) 作業開始前の点検・確認

屋根工事作業者は、正しい服装で安全作業をしてください。
保護帽はきちんとかぶり、あごひもは確実にしめ、安全帯(命綱)、作業靴(すべりにくいもの)を必ず着用してください。
健康状態に注意して作業してください。
グラインダー・サンダーでの切断時には防塵メガネ・防塵マスクを着用してください。



2) 作業における点検・確認

屋根勾配・流れ長さ・地域等に適した設計基準になっているかを確認してください。
屋根下地の施工が安全に行われているかを確認してください。
整理・整頓に心掛けてください。
転落防止の足場を確保して下さい。
機械工具類の安全運転の確認をしてください。

3) 施工後についても養生・保守管理を徹底してください。

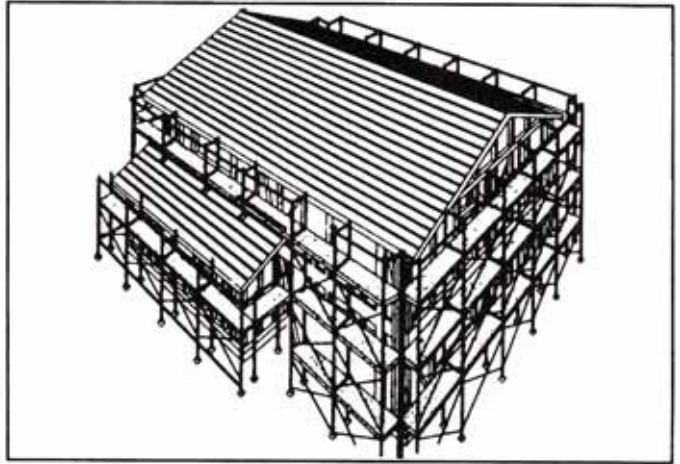
4) その他

この施工要領書は、瓦屋根工事技士、瓦葺一級技能士、二級技能士、またはこれらと同等の施工能力を持った専門業者を対象としています。

3 . 安全作業

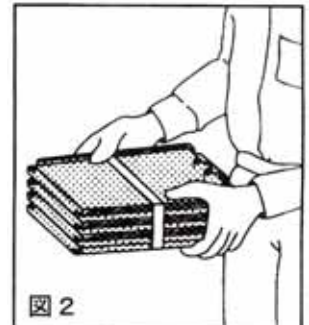
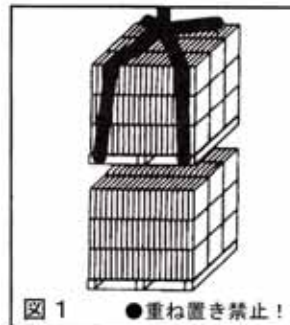
安全管理（高所作業の安全）

墜落防止のために高所作業には足場、瓦揚げ機、脚立等の設備を使って適当な広さの、手すりを設けた作業床を設けてください。
墜落防止のため、防護ネットを設けてください。



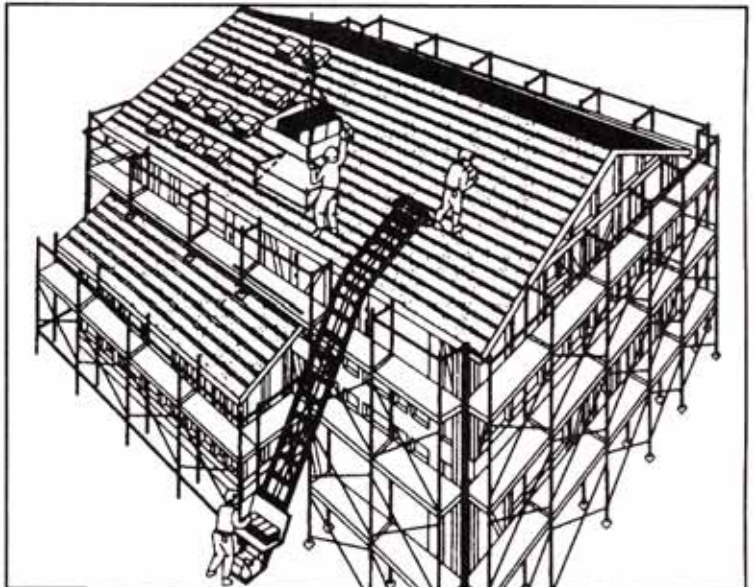
現場での瓦の取扱方法

現場へ瓦を置くときは置き場所が水平かどうかを確認してください。
瓦のパレット積み商品の重ね置きは禁止します。
瓦のバラ置きの場合は荷崩れしないようにしてください。
瓦の建屋にもたせかけないでください。
瓦を運ぶときは、結束バンドを持たないで瓦自体をお持ち下さい。
(結束バンドの接着不良、劣化等により、結束バンドが切れることがあります。)



瓦揚げ

瓦揚げの場合、瓦揚げ機、クレーン等で行ってください。手渡し等は絶対にしないでください。
クレーン使用の場合は、必ず有資格者が行ってください。屋根上で水平となるような台を設置してから作業してください。
瓦揚げ機の台車には瓦が落下しないような積み方をしてください。
瓦揚げ機を使用の際は、瓦揚げ機の仕様書に従ってください。
作業現場の状況に適した機械のかけ方をしてください。
地上で作業する者は常に頭上に注意し、落下物に対する身の処置を考えておいてください。
また屋根上で作業する者は、台車を止める位置と合図を明確に指示し、上下の連絡を密にしてください。
瓦揚げ機の台車には絶対に乗らないでください。



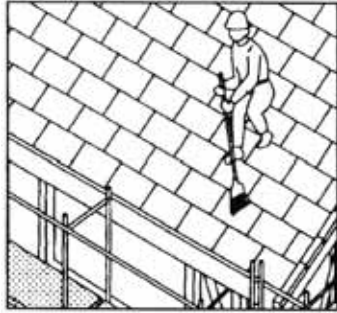
梱包の解き方

屋根上での瓦は一束以上は積み上げないでください。
屋根上で結束バンドを解くときは、カッターで結束バンドを切断し、包装紙・結束バンドが飛散しないようにしてください。

4 . 施工後の保守・管理

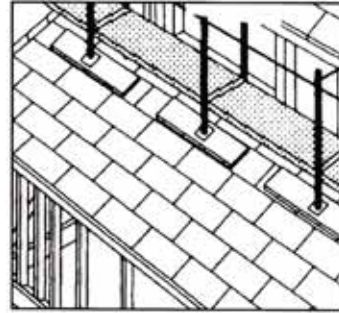
葺き上げた瓦屋根を完全な状態でお施主様に満足していただくために、屋根施工後、施工事業者の方に次の点を十分にご注意いただくよう指示徹底をしてください。

工事終了後は、必ずゴミやクズなどをきれいに掃除してください。



足場を組む場合は、屋根面に必ず養生板を敷くようにしてください。

屋根面を足場にして作業する場合は、必ず養生板を敷きこんでください。



作業中、足場から屋根面へ跳び降りたり、物を落としたりするとヒビ割れ、破損を生じ、雨漏りなどクレームの原因となりますので注意指摘してください。

特にオーバーラップ部を踏まないように注意してください。

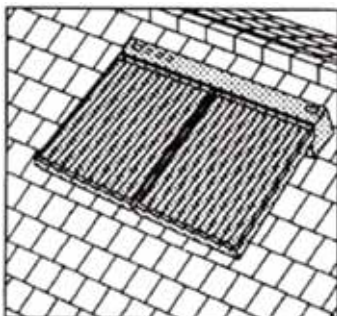


壁面、その他モルタル塗り、リシン吹きつけなどの吹付作業に際しては、屋根面のシート養生を徹底するよう指示してください。

瓦に付着したモルタル塗装の汚れは、補修できませんのでご注意下さい。

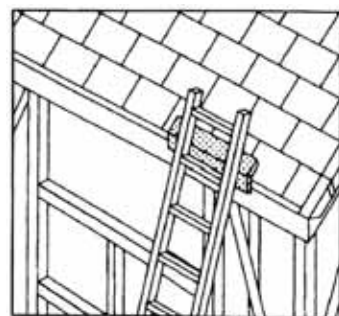


アンテナ、温水器等の設置止め付け時は瓦の破損、ずれが生じやすくなりますのでご注意ください。



ハシゴをかける場合には、当木を使ってください。

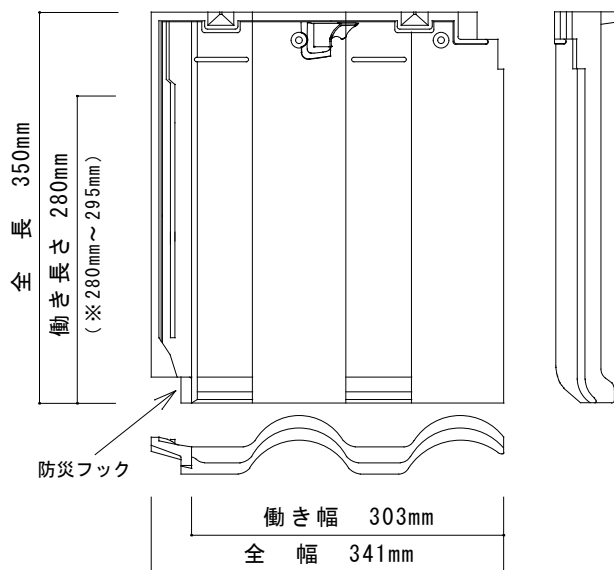
重量物を設置する場合荷重が1点にかからないようにしてください。



5. 製品の仕様・リスト

製品仕様

イーグルマキシムEX棧瓦



製品仕様

全長	350mm	全幅	341mm
働き長さ	280mm (280mm~295mm)	働き幅	303mm
重量	3.4kg/枚 (40.1kg/m ²)		
葺き枚数	約12枚/m ² (約40枚/坪)		
梱包枚数	396枚/パレット		
勾配	2.5寸勾配以上		

※ 働き長さは280mmが基準ですが280mm~295mmの範囲で調整可能です。

標準屋根勾配及びその流れ長さ

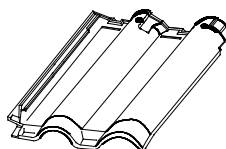
標準屋根勾配	2.5/10	3.0/10	3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	6.0/10
その流れ長さ	15m	17m	19m	21m	23m	25m	29m

【注】これはイーグルマキシムEXを安心してお使い頂くための標準値です。

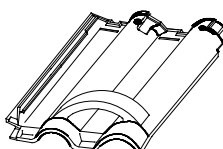
建築基準法 第2条9項に基づき国土交通省告示第1400号に瓦は不燃材料として定められています。
1100度以上の高温で焼き固められているので通常の火災時の加熱に対して、燃焼、変形、溶融、亀裂、有害なガスの発生はありません。

製品リスト 瓦

イーグルマキシムEX棧瓦

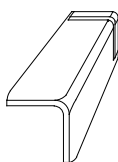


マキシムEX雪止瓦

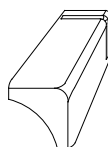


兼用袖

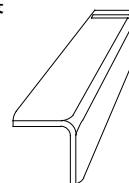
兼用袖



兼用角



兼用袖寸長



7寸丸

7寸丸



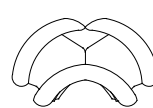
7寸丸止メ大、小



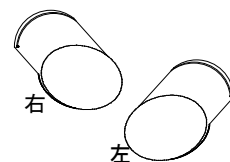
7寸丸カッポン (7寸丸隔棟止)



7寸丸三つ又

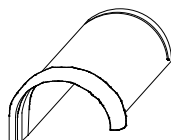


7寸丸菱巴 右、左

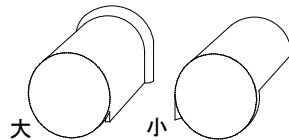


7寸垂れ付丸

7寸垂れ付丸



7寸垂れ付丸止メ大、小



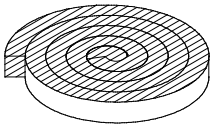
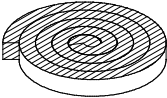
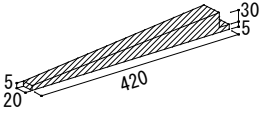
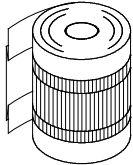
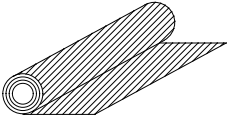
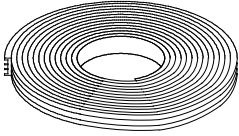
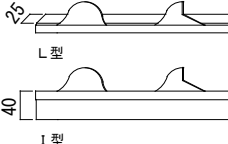
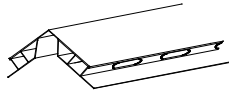

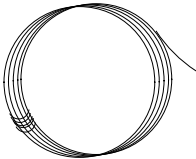

※受注生産品

※受注生産品

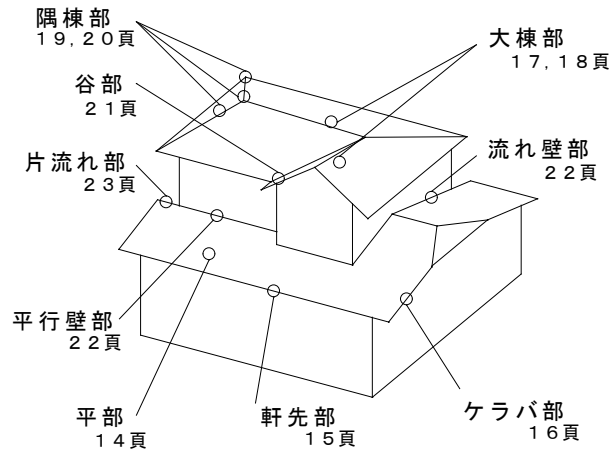
雨押え・水切部材			
<p>軒先メタル（三角） （軒先水切） 三角の瓦座の場合のみ使用 瓦座の後に取り付け</p> <p>長さ 1829mm G L t=0.35 ○ □</p>	<p>軒先メタル Z</p> <p>瓦座の形状に関係なく取付 瓦座の前に取り付け</p> <p>長さ 1829mm G L t=0.35 ○ □</p>	<p>ケラバ捨水切</p> <p>長さ 1829mm G L t=0.35 ○ □</p>	<p>平行壁・流れ壁メタル （雨押えメタル）</p> <p>長さ 1829mm G L t=0.35 ○ □</p>
<p>流れ壁捨水切</p> <p>長さ 1829mm G L t=0.35 ○ □</p>	<p>谷樋 （本谷メタル）</p> <p>長さ 1829mm ステンst=0.35以上 G L t=0.35以上 ○ □</p>	<p>壁止め板金 右 壁止め板金 左</p> <p>図は左 G L t=0.35 □</p>	

木材			
<p>桟木 15×30以上</p> <p>針葉樹類 防腐処理 □</p>	<p>樹脂鼻桟 40×35</p> <p>材質 発泡樹脂 長さ 3m □</p>	<p>垂木 42×42（針葉樹類）</p> <p>長さ 3m □</p>	<p>笠木 15×90</p> <p>針葉樹類 □</p>
<p>樹脂笠木 18×90</p> <p>材質：発泡樹脂 長さ：3m □</p>			

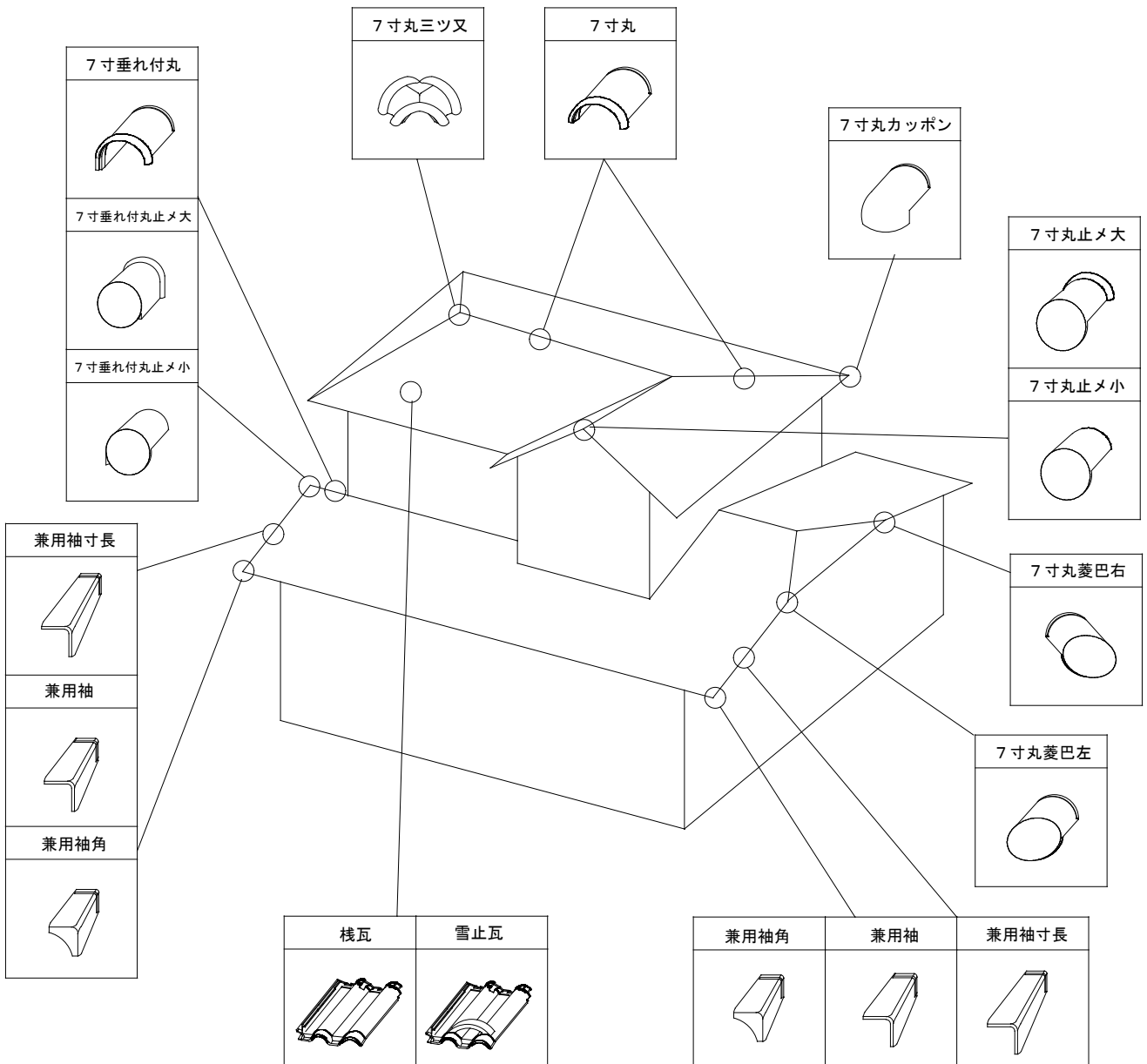
副資材			
<p>ステンスフ[®] ロンス[®] ビス（パ[®] ッキン付） （役瓦用）</p> <p>65mm 75mm 100mm 125mm</p> <p>※他色可 ※125mmは現地調達材 ねじ部φ3.8-4.2mm SUSXM7 ○ □</p>	<p>セーフティステンレススクリュー釘 （桟瓦用）</p> <p>#12×75mm</p> <p>SUS304 ○ □</p>	<p>耐風 L 釘 L-65 （軒先用）</p> <p>#12×65mm</p> <p>SUS304 ○ □</p>	<p>ステンレスリング釘 （桟木用）</p> <p>#14×50mm</p> <p>SUS304 ○ □</p>
<p>ステンレススクリュー釘 （板金用）</p> <p>#14×32mm</p> <p>SUS304 □</p>	<p>マキシムEX雪止金具</p> <p>色 / 黒・茶・緑</p> <p>○ □</p>	<p>調整式 棟金具 （棟モード）</p> <p>60～100, 80～120</p> <p>SUS430 □</p>	<p>南蛮しっくい</p> <p>（棟モード）</p> <p>○ □</p>

副資材			
<p>EPDMシーラー 25×20 (イーグルシーラー25×20)</p>  <p>長さ 2000mm</p> <p>○ □</p>	<p>EPDMシーラー 15×15 (イーグルシーラー15×15)</p>  <p>長さ 2000mm</p> <p>○ □</p>	<p>EPDM段付シーラー (流れ壁用シーラー)</p>  <p>瓦 1 段分</p> <p>○ □</p>	<p>ハイロール</p>  <p>同等の性能を有する他製品可</p> <p>○ □</p>
<p>改質アスファルトルーフィング</p>  <p>□</p>	<p>縦棧用テープ</p>  <p>1 巻 30m</p> <p>□</p>	<p>軒先面戸</p> <p>色：黒</p>  <p>L 型 I 型</p> <p>長さ 910mm ホリワビレ</p> <p>○ □</p>	<p>換気棟 換太郎</p>  <p>○</p>
<p>瓦用接着剤</p>  <p>シリコン又は変成シリコン</p>	<p>ホルマル被覆銅線 又はステンレス線</p>  <p>#19以上</p> <p>□</p>	<p>ペンキ</p>  <p>○</p> <p>【取り扱いのご注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンキはタレないように、必要箇所のみ塗布すること。 ・局部処理用です。広い部分には使用しないこと。(釉薬面とは違い補修用ペンキは経年変化により変色します。広い面積に使用すると違和感が生じます。) ・使用前に色が均一になるまで攪拌すること。(攪拌が不十分な場合、色違いの原因となる。) 	
<p>雨押え・水切部材、木材、副資材について</p> <p>製品リスト記載の副資材等の部材は当社推奨品です。</p> <p>瓦屋根標準設計・施工ガイドラインの仕様に準拠している部材は使用可能です。</p>			

■ 部位名称と掲載頁



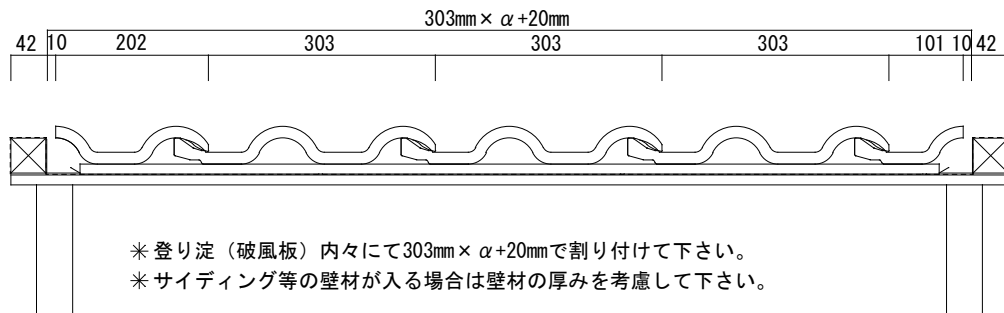
■ 同質部材



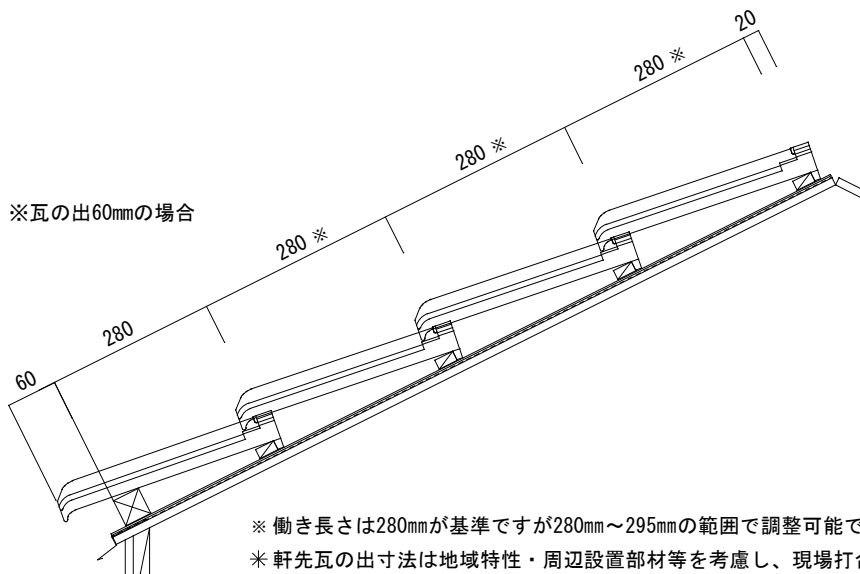
下地の施工

1 桁行と流れの地割寸法

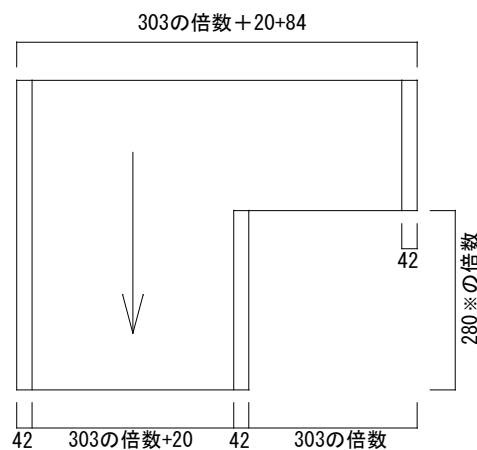
■ 桁行の地割寸法



■ 流れの地割寸法

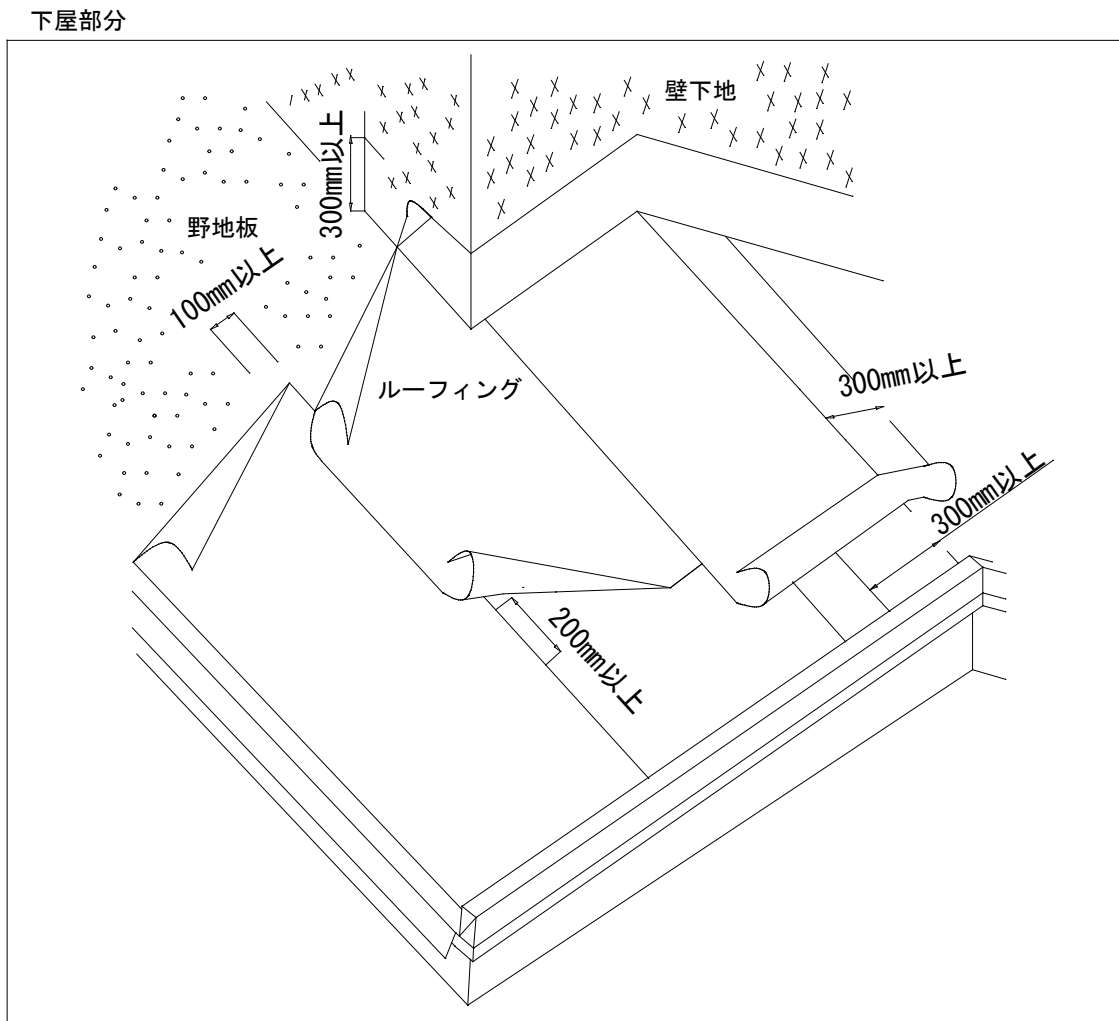


■ すぐるの地割寸法



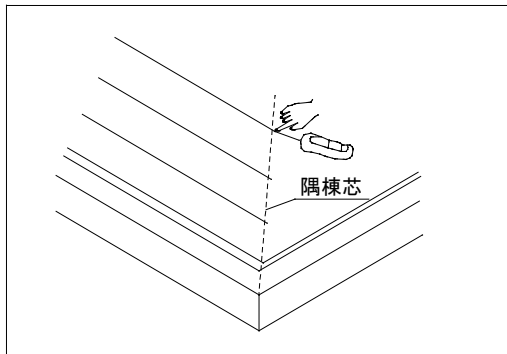
2 ルーフィングの施工

■ルーフィングの貼り方

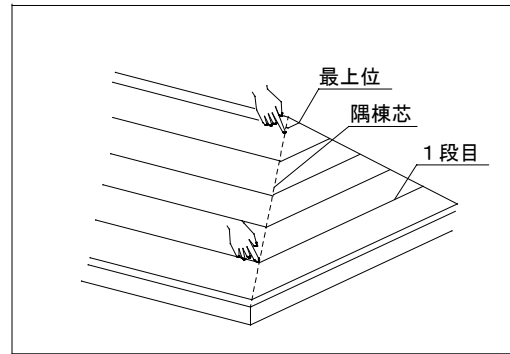


- 平部
改質アスファルトルーフィングを桁行方向に平行に貼って下さい。
流れ方向の重ね100mm以上
桁行方向の重ね200mm以上
棟部の重ね300mm以上
- 壁際部
300mm以上立ち上げて下さい。
- 軒先部
軒先よりはみ出さないように注意し、先端まで貼って下さい。
- ケラバ部
登淀の上面を巻くように貼って下さい。
- 谷部・隅棟・陸棟
谷部は、捨てルーフィングの上から二重にして下さい。
隅棟、陸棟は、二重になるように貼って下さい。

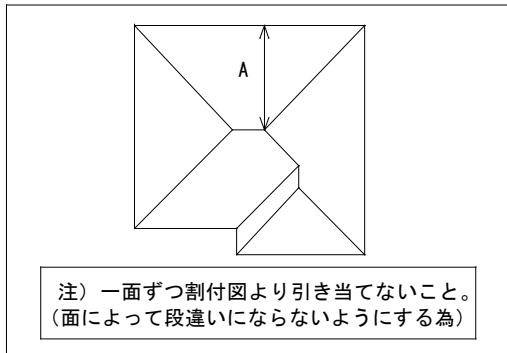
3 瓦の割付手順



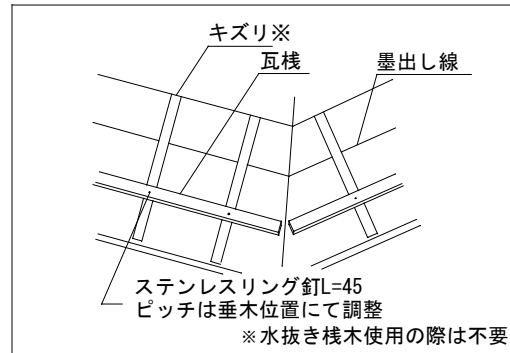
1. 軒先の瓦棧位置（280mm 瓦の出60mm）を隅芯で交わるように墨打ちして下さい。



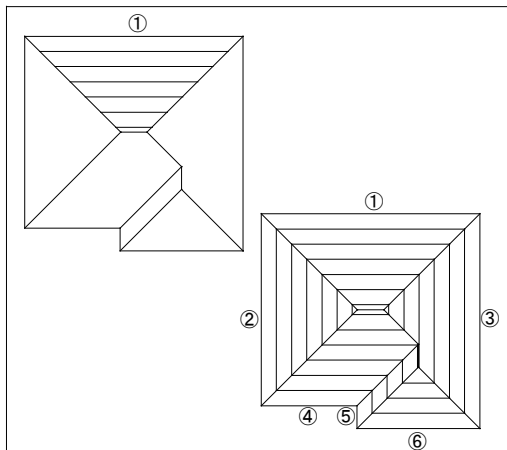
4. 墨打ちの一段目と最上段の交点を結んで隅棟の芯をだして下さい。



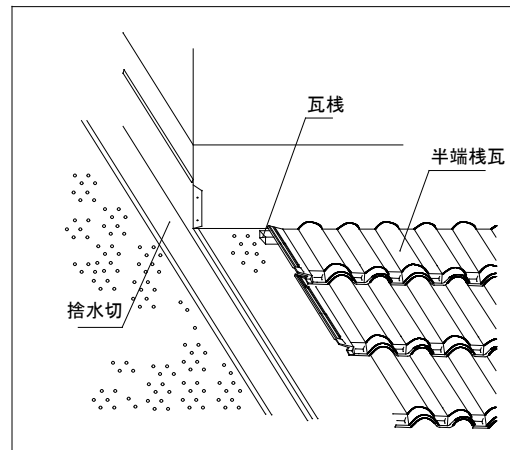
2. 瓦棧割付の際、軒先から棟までの一番長い面を基準に割付けて下さい。
(例) 下図の場合、Aが一番長いので割付図を参照し墨打ちして下さい。



5. キズリをホッチキスで取り付けして下さい。
6. 瓦棧は曲がりのないように真直ぐ取り付けして下さい。
(曲がっていると葺き足が揃いません)

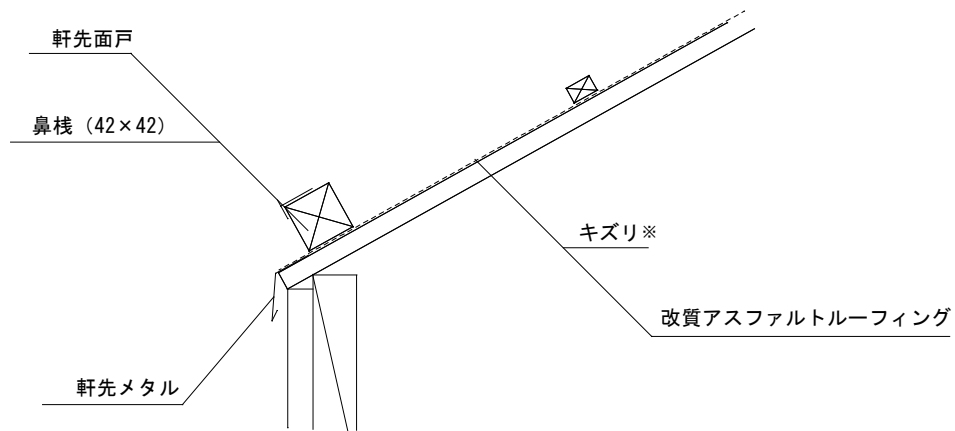


3. ①の面を割付図により均等に墨打ちをし、残りの面は①を基準に同じ要領で墨打ちして下さい。

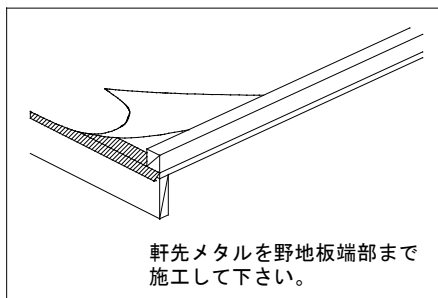


7. 棟際（もしくは壁際）で、桁方向に棧瓦をカットした場合は、そのままでは勾配が揃わないので他の棧瓦と同じ勾配になるように瓦棧で高さを調整して下さい。

4 軒先部



切妻

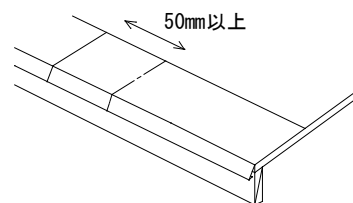
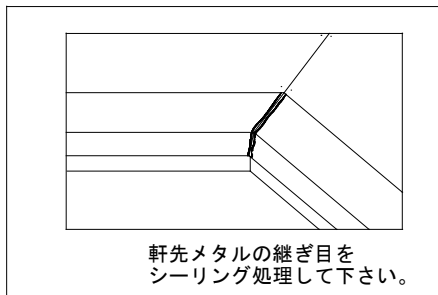


軒先メタルは野地と改質アスファルトルーフィングの間になるように取り付けて下さい。

軒先メタルの折れ曲げ部分と、野地板の先端を合わせて取り付けて下さい。

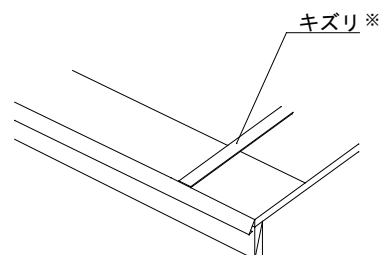
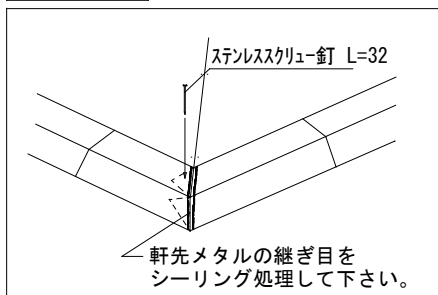
重ね代は50mm以上として下さい。

入隅



キズリ※は野地先端まで施工して下さい。

出隅

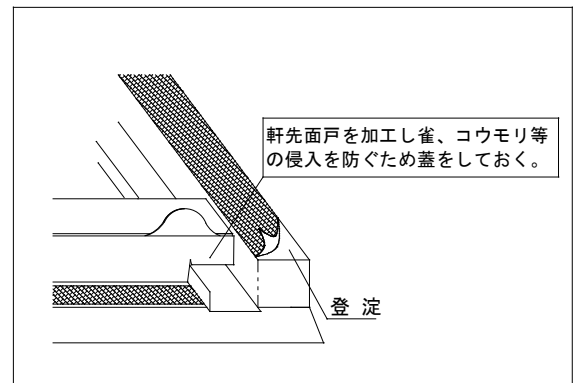
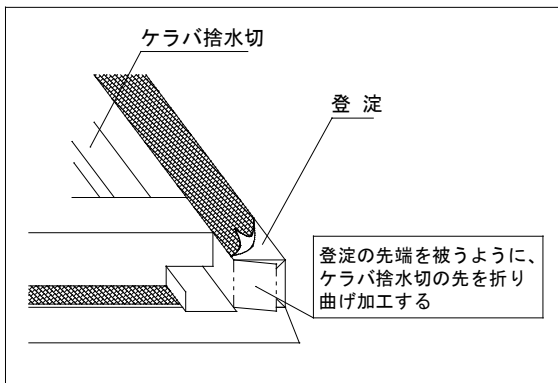
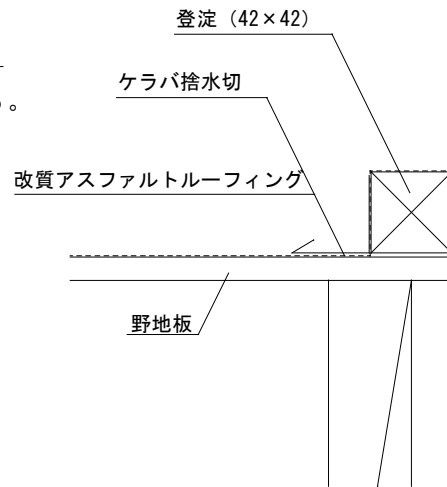


※水抜き棧木使用の際はキズリは不要

5 その他

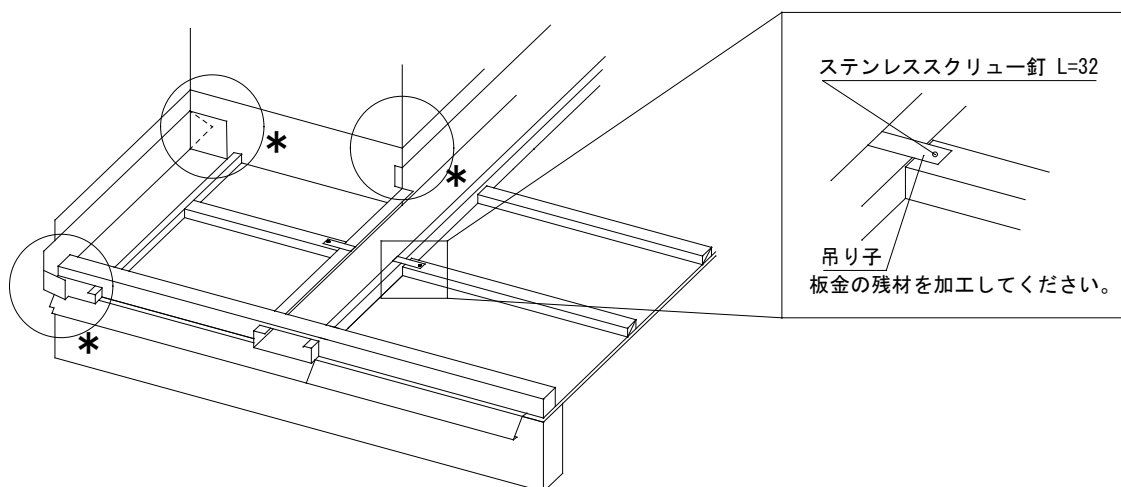
■ 捨水切（ケラバ）

登淀を巻くように改質アスファルトルーフィングを貼る。
ケラバ捨水切を取り付ける。



■ 捨水切（壁際）

瓦棧取付け後、吊り子にて固定します。
流れ壁捨水切の軒出寸法は10mmとします。



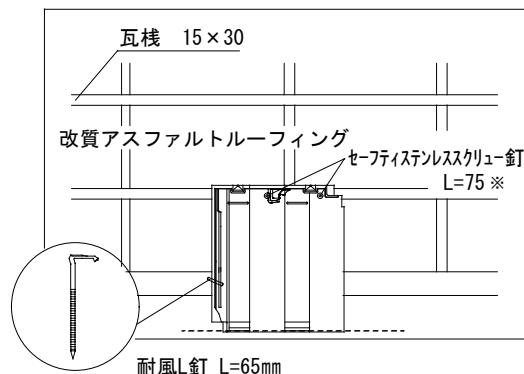
* 流れ壁捨水切、軒先メタルは壁に水が流れ込まないように加工・シーリング処理して下さい。

標準的な施工方法

1 棧瓦の施工

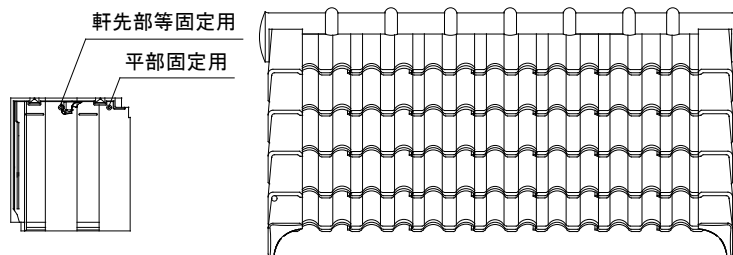
■ 軒先部

軒先棧瓦の出は野地先端より60mmを基準とします。
軒先棧瓦はセーフティステンレスクリュー釘
L=75mm※にて2箇所と耐風L釘L=65mm 1箇所
で取り付けて下さい。耐風L釘の瓦を押える部分
が水下に傾くように注意して取り付けて下さい。
(上向き、真直ぐにすると雨水が軒先釘を伝わる
恐れがあります)

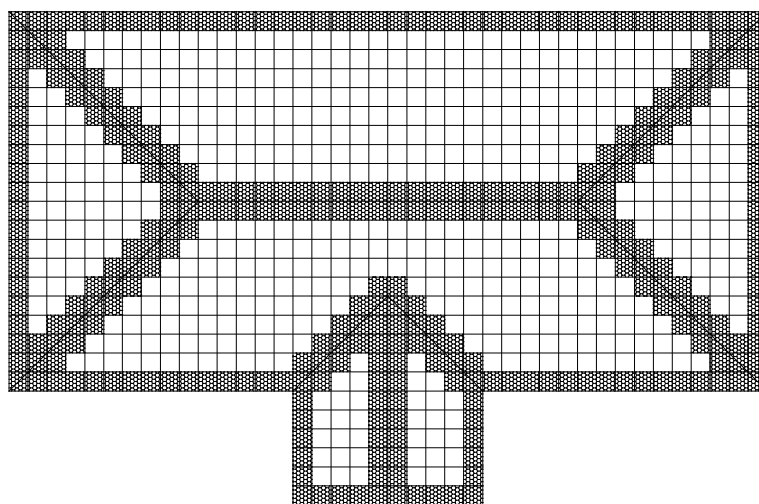
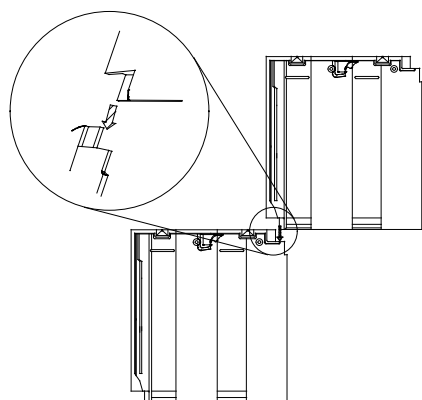


■ 平部

平部、棟際、袖際全てでセーフティ
ステンレスクリュー釘L=75mm※
にて固定して下さい。平部棧瓦の
固定は、右側の釘穴に釘打ちして
下さい。
(左側の釘穴は2本打ち箇所用です)



防災瓦の接合部分



※またはステンレスリング釘L=75mm

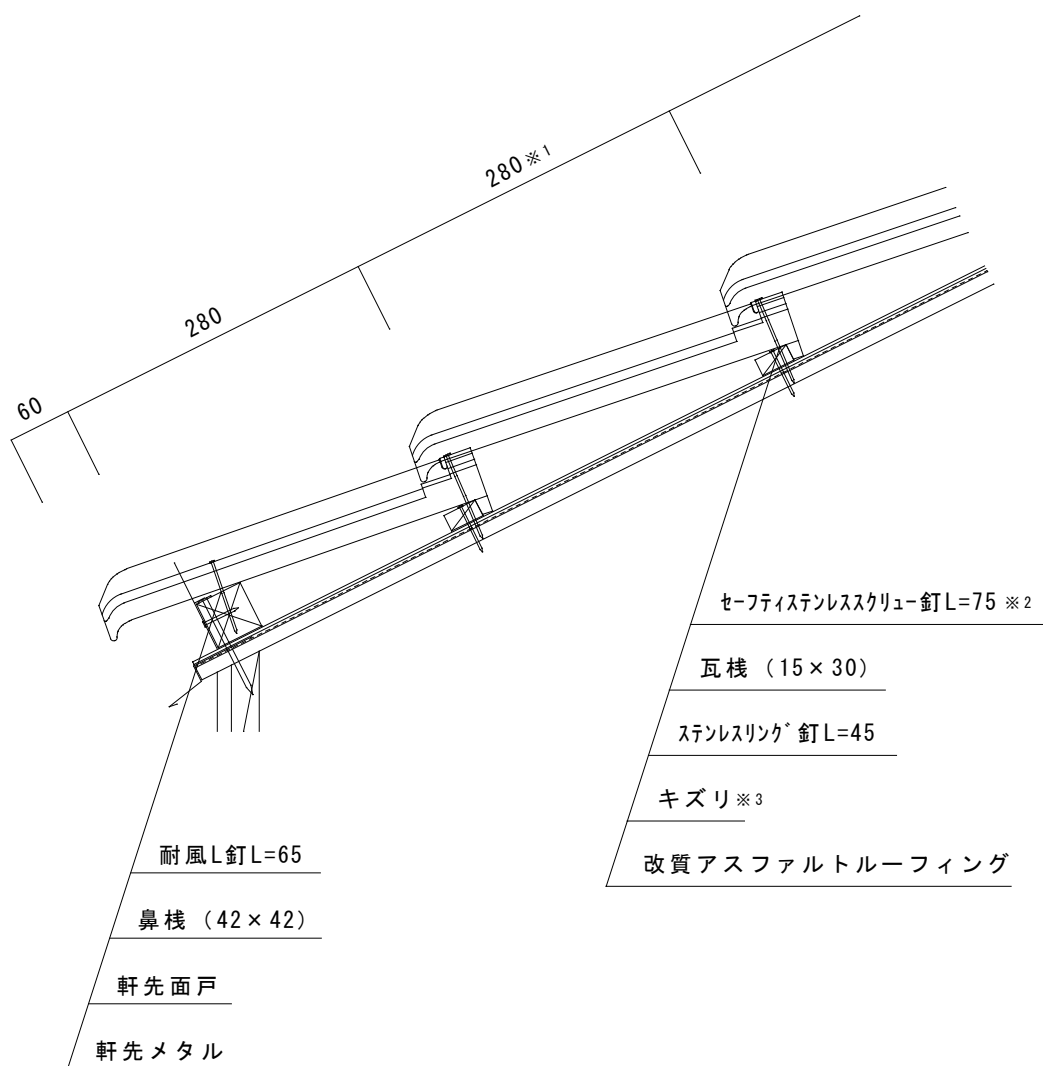
■ セーフティステンレスクリュー釘※ 2本打ち箇所を表します。
その他は全数釘打ち 1本にて固定して下さい。

2 軒先の施工

■ 軒先の納まり

軒先メタルは野地と改質アスファルトルーフィングの間になるように必ず施工して下さい。
瓦の出は参考数値です。*軒先瓦の出寸法は地域特性・周辺設置部材等を考慮し、現場打合せの上、決定してください。

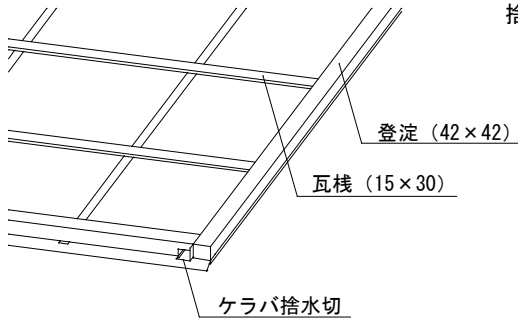
軒先1段目の棧瓦は1枚につきセーフティステンレスクリュー釘L=75mm※2 2本と耐風L釘L=65mm 1本にて3箇所固定して下さい。



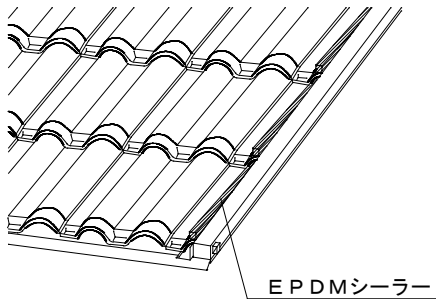
- ※1 働き長さは280mmが基準ですが280mm~295mmの範囲で調整可能
- ※2 またはステンレスリング釘L=75
- ※3 水抜き棧木使用の際はキズリは不要

3 ケラバの施工

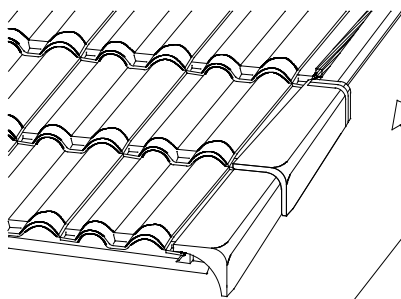
■兼用袖・角の納まり



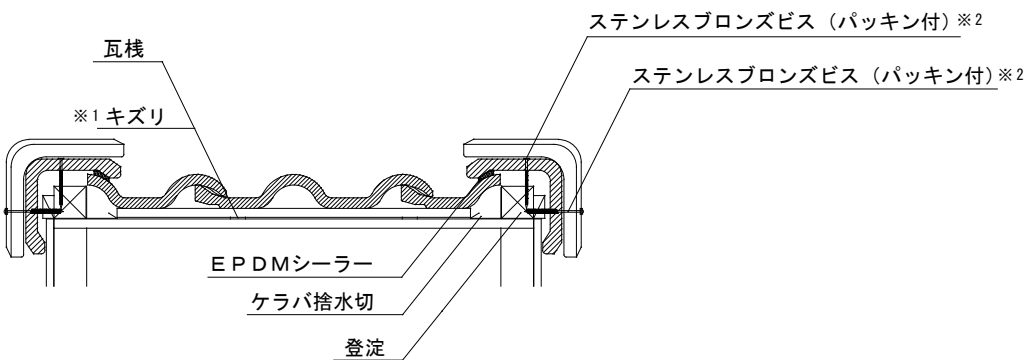
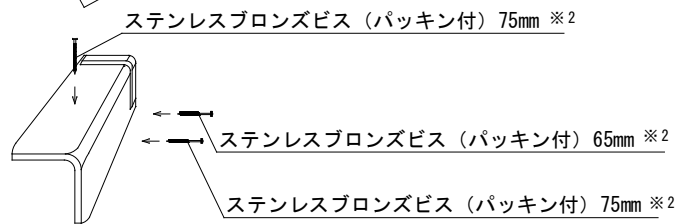
捨水切は必ず施工して下さい。



棧瓦を葺き、EPDMシーラーを取り付けます。
EPDMシーラーは棧瓦の先端から瓦尻まで貼って下さい。
兼用角瓦を施工する場合、下地材等を取り付け、袖瓦とレベルをあわせて下さい。



袖瓦 (角瓦) は上面1箇所をステンレスブロンズビス (パッキン付) 75mmにて側面2箇所をステンレスブロンズビス (パッキン付) 65mmと75mmにて3箇所固定として下さい。



※1 水抜き棧木使用の際はキズリは不要
※2 ステンレスブロンズビスは他色可

4 大棟の施工

■下地施工

棟芯に910mmピッチで棟金具（H=80）をステンスリング釘L=45mm（片側2本ずつ両側4本以上）にて取り付けて下さい。

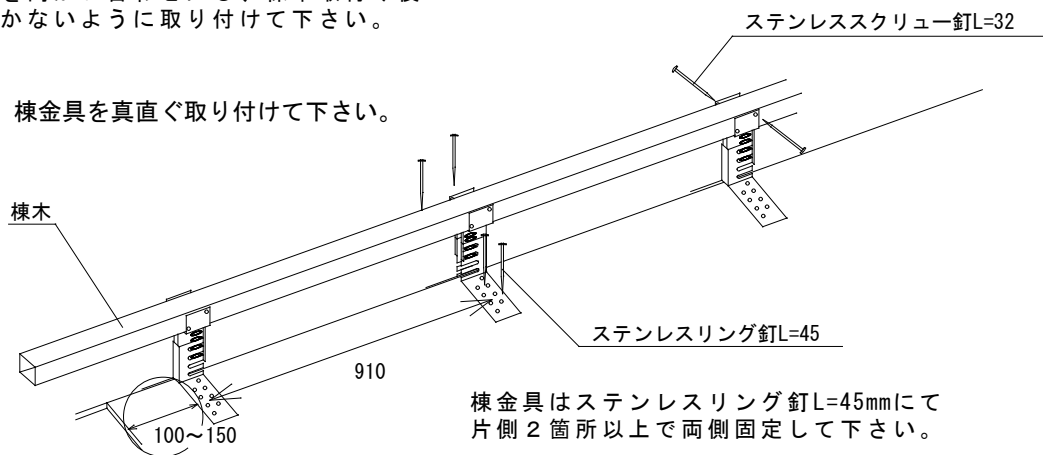
棟金具に棟木を継ぎ手の出来ないように取り付けて下さい。

（継ぎ手が出来てしまう場合は必ず棟金具の上で継いで下さい。）

棟金具の間隔で910mmで棟木がたわむ場合は棟金具の本数を増やして下さい。

棟金具同士を向かい合わせにし、棟木取付け後棟金具が動かないように取り付けて下さい。

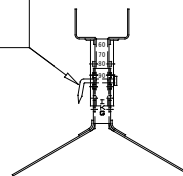
棟芯をだし、棟金具を真直ぐ取り付けて下さい。



妻側端部より登淀、捨水切分100mm～150mm程度控えて下さい。

⚠ 棟金具取り付けの注意事項

棟金具は、抜け防止の為、必ず釘を刺しハンマー等で折り曲げて下さい。

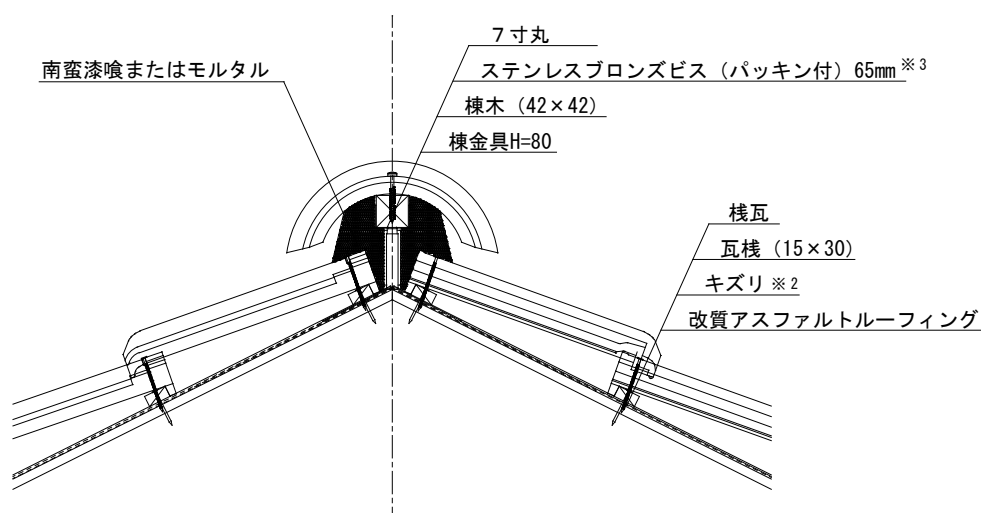


注）棟金具は調整式（ジョイント式）棟金具（棟モード等）の場合

■ 7寸丸の取付

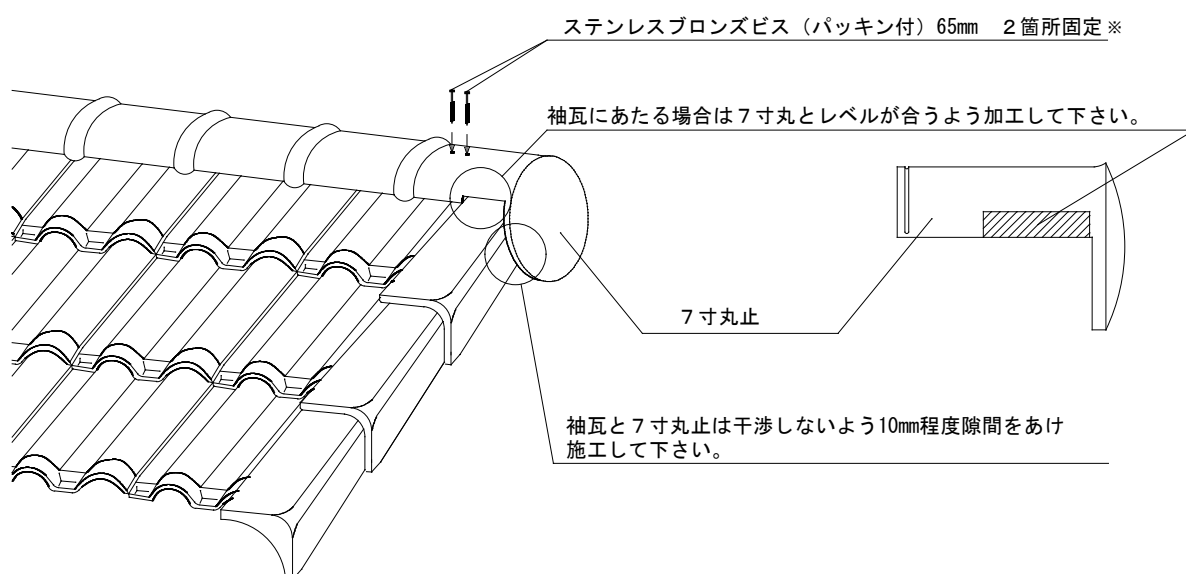
棧瓦が棟芯まで葺き上がったら南蛮漆喰またはモルタルをいれます。この時7寸丸の幅より30mm程度控えて下さい。大棟の通りに注意して棟木に7寸丸をステンレスブロンズビス（パッキン付）65mmにて1箇所固定して下さい。

棟際に半端瓦がはいる場合等、平部棧瓦と半端瓦のレベルがあうよう瓦棧等で高さを調整して下さい。半端瓦の棧山に穴をあけセーフティステンレススクリーニング釘L=75mm※¹にて2箇所固定して下さい。南蛮漆喰またはモルタルにて棧瓦と7寸丸をジョイントさせ棟全体を一体化させて下さい。



- ※¹ またはステンレスリング釘L=75mm
- ※² 水抜き棧木使用の際は不要
- ※³ ステンレスブロンズビスは他色可

■ 7寸丸止の施工注意点



- ※ ステンレスブロンズビスは他色可

5 隅棟の施工

■下地施工

棟芯に750mmピッチで棟金具（H=100）をステンスリング釘L=45mm（片側2本ずつ両側4本以上）にて取り付けて下さい。

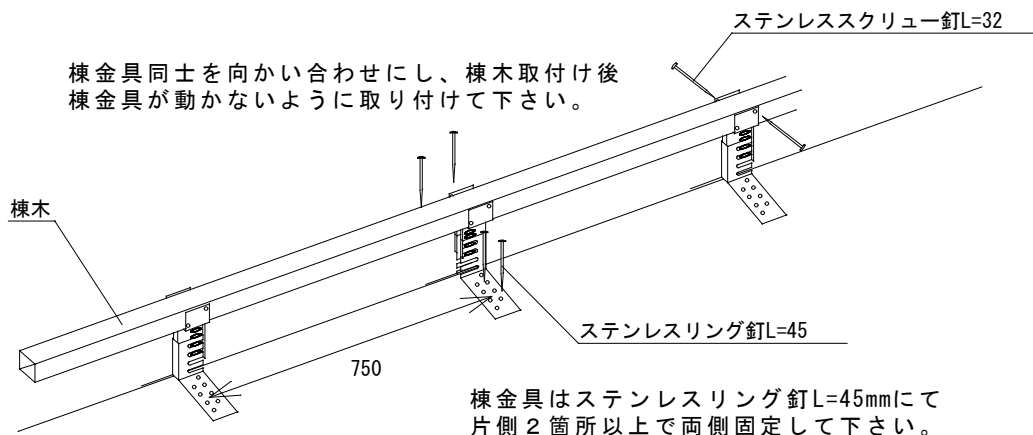
棟金具に棟木を継ぎ手の出来ないように取り付けて下さい。

（継ぎ手が出来てしまう場合は必ず棟金具の上で継いで下さい。）

寄棟の場合、大棟と隅棟の取り合いは現場で高さが合うようにレベル調整して下さい。

棟金具の間隔で750mmで棟木がたわむ場合は棟金具の本数を増やして下さい。

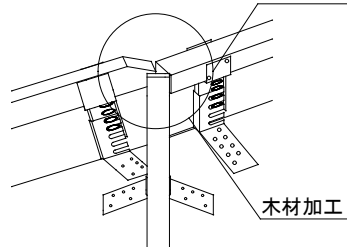
棟金具と棟木はステンスクリュー釘L=32mmにて片側1箇所以上で両側固定して下さい。



棟金具はステンスリング釘L=45mmにて片側2箇所以上で両側固定して下さい。

棟芯をだし、棟金具を真直ぐ取り付けて下さい。

隙間が多いと三つ又を固定するビスが効かなくなるので極力詰めて下さい。



■ 棧葺きの施工注意点

棟芯を挟んだ棧瓦と棧瓦の隙間は出来るだけ少なくして下さい。

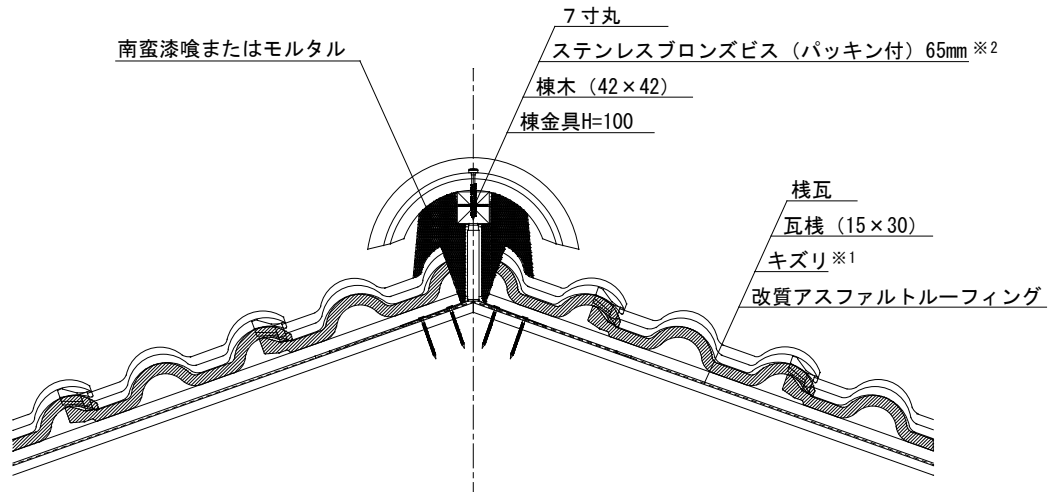
加工した半端の棧瓦はレベルを調整し釘または銅線で取り付けて下さい。

釘穴をあけられない様な小さな半端瓦は隣接する釘固定してある加工していない瓦とシーリング等で接着して下さい。

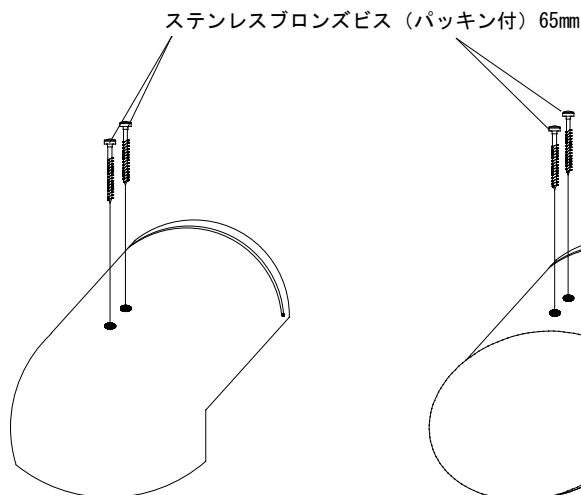
注）棟金具は調整式（ジョイント式）棟金具（棟モード等）の場合

■ 7寸丸の取付

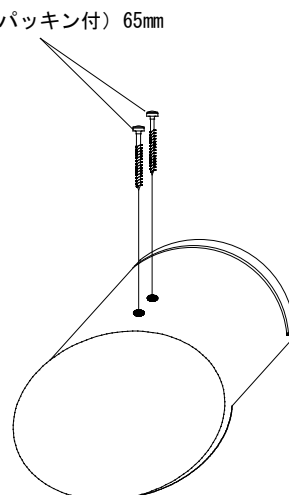
棧瓦が棟芯まで葺き上がったなら南蛮漆喰またはモルタルをいれます。この時7寸丸の幅より30mm程度控えて下さい。大棟の通りに注意して棟木に7寸丸をステンレスブロンズビス（パッキン付）65mmにて1箇所固定して下さい。



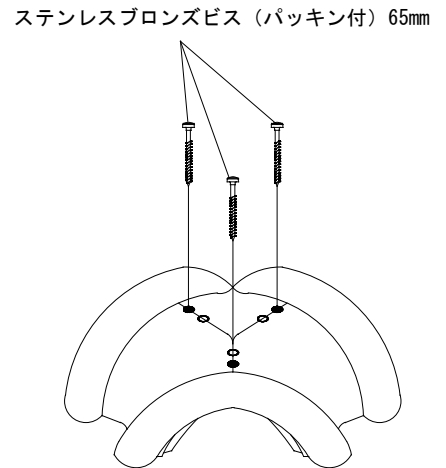
※1 水抜き棧木使用の際は不要
 ※2 ステンレスブロンズビスは他色可



7寸丸カッポン
 （7寸丸隅棟止）



7寸丸菱巴



7寸丸三つ又

7寸丸カッポン（隅棟止）はステンレスブロンズビス（パッキン付）65mmにて2箇所固定して下さい。

7寸丸菱巴はステンレスブロンズビス（パッキン付）65mmにて2箇所固定して下さい。

7寸丸三つ又ははステンレスブロンズビス（パッキン付）65mmにて3箇所固定して下さい。

6 本谷の施工

■本谷の納まり

谷部はあらかじめ幅1mでルーフィングを捨て貼りして下さい。

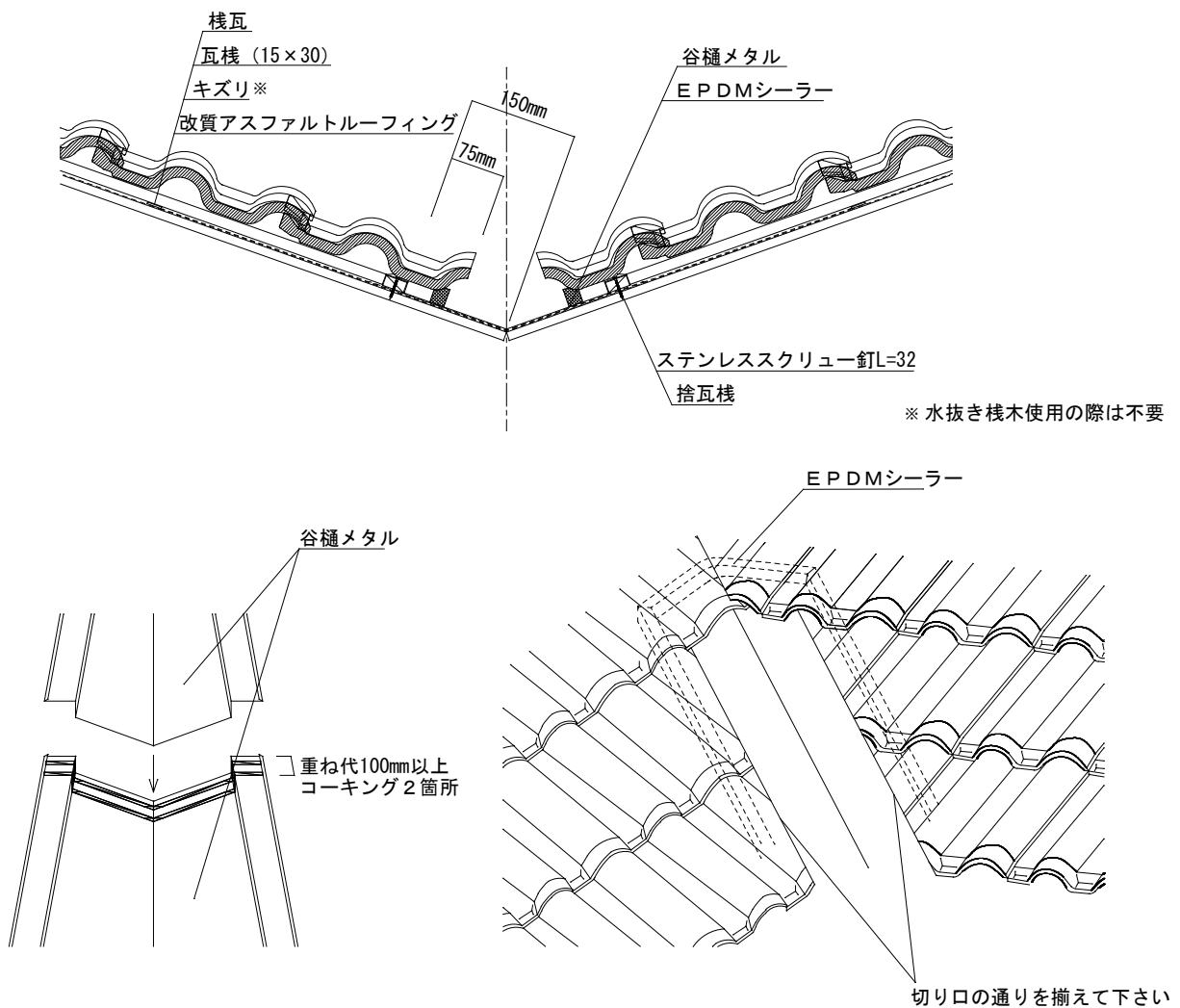
谷樋メタルはジョイント部分で100mm以上重ね2箇所以上シーリング処理して下さい。

谷樋メタルにEPDMシーラーを施工して下さい。

谷部の棧瓦は谷樋の立ち上がりより75mmの位置でカットして下さい。

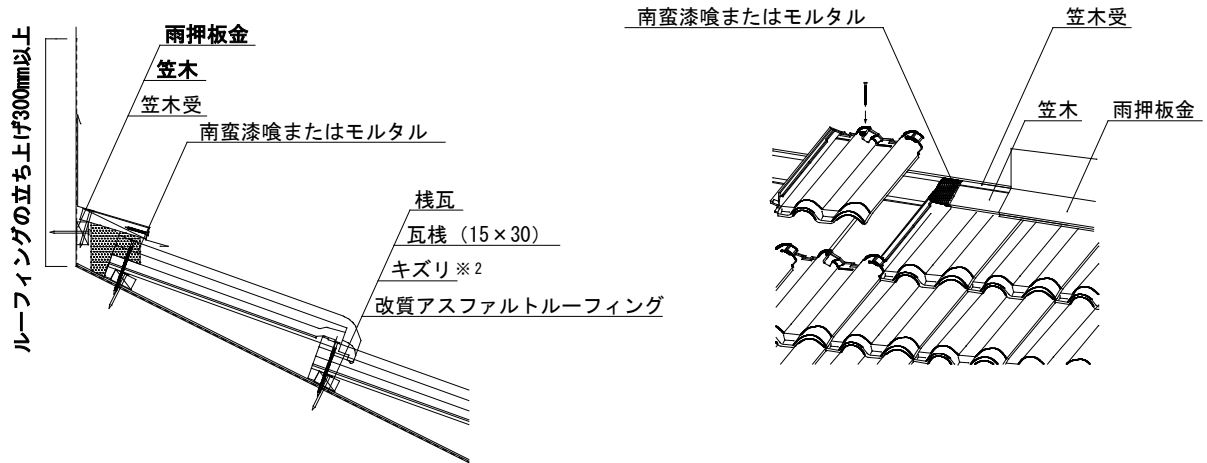
釘穴をあけられない様な小さな半端瓦は隣接する釘固定してある加工していない瓦とシーリング等で接着して下さい。

雀等が入らないように谷樋上部にEPDMシーラーを貼り隙間を塞いで下さい。



7 壁際の施工

■ 平行壁の納まり

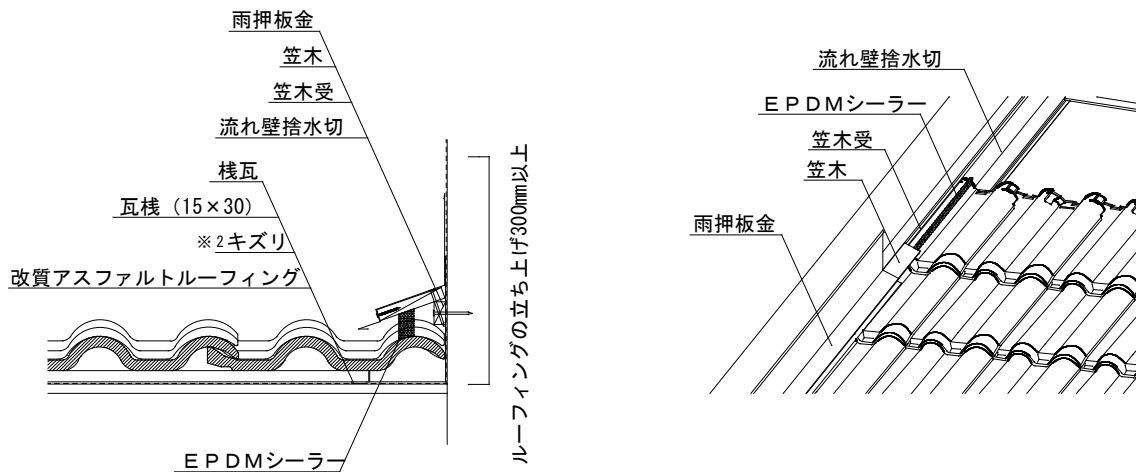


改質アスファルトルーフィングの立ち上がりは300mm以上として下さい。

壁際に半端瓦がはいる場合等、平部棧瓦と半端瓦のレベルが合うよう瓦棧等で高さ調整して下さい。

半端瓦の棧山に穴をあけセーフティステンレスクリュー釘L=75mm※¹にて2箇所固定して下さい。

■ 流れ壁の納まり



改質アスファルトルーフィングの立ち上がりは300mm以上として下さい。

流れ壁捨水切は必ず施工して下さい。

流れ壁際部が棧山の頂点付近になるように施工して下さい。

EPDMシーラーは棧瓦の先端から瓦尻まで貼って下さい。

流れ壁捨水切りは延長部材を使用し軒先まで延ばして施工して下さい。

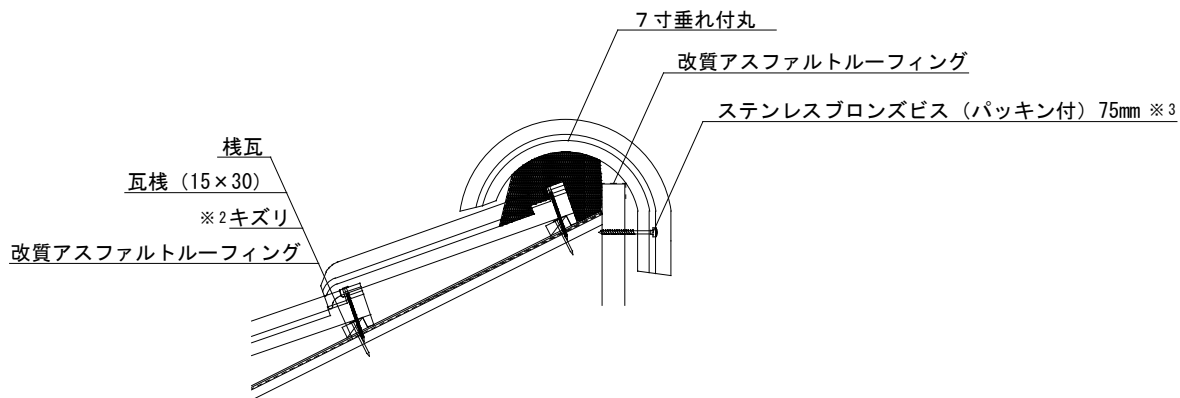
※¹またはステンレスリング釘L=75mm

※²水抜き棧木使用の際は不要

8 片流れの施工

■片流れの納まり

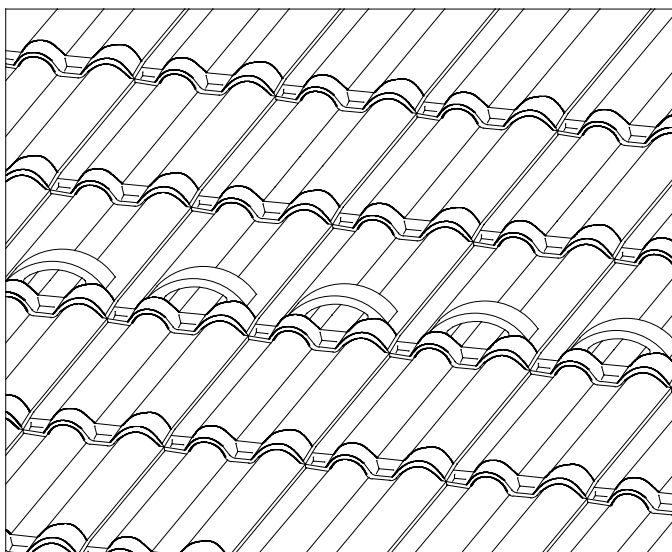
改質アスファルトルーフィングは片流れ頂部を巻き込むように施工して下さい。
棟際に半端瓦がはいる場合等、平部棧瓦と半端瓦のレベルがあうよう瓦棧等で高さを調整して下さい。
半端瓦の棧山に穴をあけセーフティステンレスクリュー釘L=75mm※1にて2箇所固定して下さい。
片流れ7寸丸および片流れ7寸丸止は棟の通りに注意してステンレスブロンズビス（パッキン付）75mm※3にて2箇所固定して下さい。
本図は参考納まりとなります。実際の現場の状態を考慮して施工して下さい。



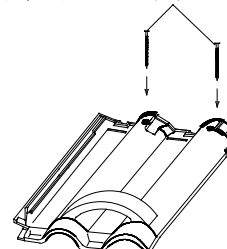
- ※1またはステンレスリング釘L=75mm
- ※2水抜き棧木使用の際は不要
- ※3ステンレスブロンズビスは他色可

9 雪止めの施工

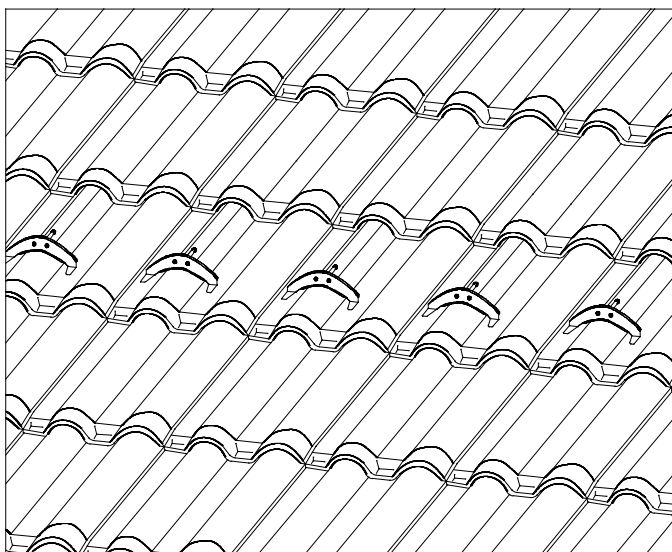
■雪止瓦の取付



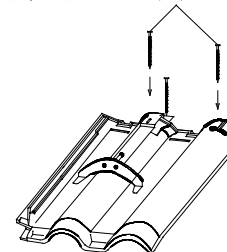
セーフティステンレススクリュー釘L=75 ※



■雪止金具の取付



セーフティステンレススクリュー釘L=75 ※



雪止金具を設置する棧瓦を葺いた後、棧瓦と同時にセーフティステンレススクリュー釘L=75mm※で1箇所固定して下さい。（雪止金具を設置する棧瓦は上記1箇所を含め2箇所固定して下さい）

雪止が取り付けられる瓦棧は、釘ピッチを150mmとし補強して下さい。
雪止1段目は、桁より軒側に施工しないで下さい。
雪止は雪を完全に止めるものではなく一挙に落下することを防ぐものです。
取り付け段数に関しては、必ず近隣の状況等を参考にして判断して下さい。

※またはステンレスリング釘L=75mm

マルスギ株式会社

本社 / 〒444-1314 愛知県高浜市論地町4丁目2番地30
TEL 0566-52-0211 / FAX 0566-54-5404
<https://www.marusugi.co.jp>
E-mail  info@marusugi.co.jp

碧南工場 〒447-0055 愛知県碧南市浜尾町1丁目62番地
TEL 0566-42-6667 / FAX 0566-42-6669

仙北営業所 〒981-0501 宮城県東松島市赤井字寺48
TEL 0225-83-2159 / FAX 0225-82-1795

福島営業所 〒979-0141 福島県いわき市勿来町窪田道作59-2
TEL 0246-65-7877 / FAX 0246-65-7542

北関東営業所 〒323-0805 栃木県小山市向野981-7
TEL 0285-49-1555 / FAX 0285-49-1558

北陸営業所 〒939-1502 富山県南砺市野尻1555
TEL 0763-22-7624 / FAX 0763-22-7625

九州事務センター TEL 090-5392-3482 / FAX 092-410-2715